



2019 年度認定NPOつくし事業報告

I 役員状況（理事定数 8 名 監事定数 2 名） 第 8 代 2 年目

2018 年 5 月 22 日～2020 年 5 月 21 日まで

| 役職 | 氏名 | 就任年月日 | 備考 | 職業、社会的活動、所属 | 理事会出席回数 |
|------|------|------------|----|---------------------------|---------|
| 理事長 | 村上栄子 | H16. 5. 15 | 重任 | 法人職員兼務 | 3 |
| 副理事長 | 渡邊健二 | H16. 5. 15 | 重任 | 法人職員兼務 | 3 |
| 理事 | 伊藤圭子 | H15. 9. 10 | 重任 | 元親の会代表 | 3 |
| 理事 | 加藤智子 | H16. 5. 15 | 重任 | 臨床心理士・臨床発達心理士 | 3 |
| 理事 | 西村 淳 | H24. 5. 18 | 重任 | ひまわりと共に歩む会 | 3 |
| 理事 | 斉藤美香 | H22. 5. 22 | 重任 | 家族 | 3 |
| 理事 | 岩田吉生 | H28. 5. 22 | 重任 | 大学准教授 | 3 |
| 理事 | 木村正明 | H28. 5. 22 | 重任 | 会社員 | 3 |
| 理事 | 時岡新 | R1. 5. 22 | 重任 | 大学教授 | 3 |
| 監事 | 伊藤照夫 | H20. 5. 31 | 重任 | ほっとくる施設長 元愛知県聴覚障害者協会会長 | 0 |
| 監事 | 篠田久恵 | H20. 5. 31 | 重任 | 愛知県手話通訳問題研究会 運営委員 | 1 |

II 2019年度総会報告

ア、 第17期定期総会 6月8日(土) 守山商工会会議室

44名中委任採決25名含む34名出席

第1号議案 2018年度事業報告 可決

第2号議案 2018年度会計報告・監査報告 可決

第3号議案 2019年度事業計画 可決

第4号議案 2019年度予算 可決

報告 第8代2年目理事について

報告 役員報酬について

III 2019年度理事会報告

ア、 第1回理事会 2019年5月25日午前10時から12時

聴覚・ろう重複センター蒼

理事総数9名のうち出席9名 監事1名

第1号議案 2018年度事業報告 可決

第2号議案 2018年度決算報告 監査報告 可決

第3号議案 2019年度事業計画案 可決

第4号議案 2019年度予算案 可決

第5号議案 NPO構成員の再考(案) 可決

第6号議案 2019年度役員報酬について(案) 可決

イ、 第2回理事会 10月26日(土) 理事9名出席 監事0名出席

第1号議案 役員規程の変更について(案) 可決

第2号議案 職員ヒアリング結果と法人解決課題について 審議

ウ、 第3回理事会 2020年2月8日 理事9名出席 監事0名

第1号議案 第10代理事、監事の選任について 可決

第2号議案 OJTの継続について 可決

第3号議案 2020年度法人事業目標 審議

IV 令和元(2019)年度事業報告

特定非営利活動法人つくしは、定款の『聴覚に障害を持つ者(聴覚障害児・者)また聴覚と他の障害とを併せ持つ者(ろう重複障害児・者)とその家族に対して福祉サービスの諸事業を行う。

これらの事業は、コミュニケーション環境の整備を図ることによって、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ地域で生活を営むことができるように支援する。また利用者の生涯にわたって、自立と社会参加・活動を実現するためのあらゆる支援を行う。』という内容に沿って、下記のとおり事業を行った。

具体的には、定款第5条第1項として障害者福祉サービス業、介護保険事業、児童福祉事業を実施し、また蒼の授産事業として化粧品製造販売事業を行った。第2項として駐車場等事業を行った。

2019年4月の職員数等、および2019年度の会計の全体像は下記のとおりである。

| | |
|--------------------------------|--|
| 正会員数 | 39名(2019年4月) |
| 賛助会員数 | 213名 5団体 |
| サービス受給者数 (全事業所 2019.5.1 時点) | 契約者数 473名 実利用者数 381名 |
| 事業所数 | 11 (名古屋市守山区3 千種区2 春日井市岩野町 豊橋市堂坂町 豊橋市小浜町 岡崎市伊賀町 津市久居) |
| 提供事業種 | 生活介護 2 共同生活援助 1 就労継続支援B型 3 放課後等デイサービス 4 児童発達支援 3 日中一時支援 2 移動支援、居宅支援、同行援護、行動援護、重度訪問介護、各1 訪問介護 予防訪問介護 各1 居宅介護支援 1 特定相談、障害児相談 各1 |
| 職員数(常勤・非常勤計) | 135名(うち常勤職員39名) |
| 年間寄付金額 | 1,633,898円 前年度比 -50% |
| 総事業収入 | 293,092,490円(対前年比 110%) |
| 総事業支出 | 271,233,054円(対前年比 101%) |

2019年度事業計画の方針は以下の通りであった。

- ① 経営の余裕のある黒字化への見通しをたて、設立後15年が経過し、慣習となっている法人運営にかかわるさまざまなことと職務の見直しを行う。
- ② 各事業所ごとに予算をたて、振り返る力に加えて、事業所の活動、支援の質、職員の動きが収支に直結していることを理解して運営できるようさらに、中間管理職の育成に努める。
- ③ 藤準備会の事業を進める。

① 黒字化に向けて上半期はまだまだ厳しかったので月次監査の中で、事業所ごとの動向を注視してきた。下半期はそら・碧・おれんじ(利用者増など)が安定的に黒字を出すようになり、経営の見通しは立てられた。また、2019年度から障害者雇用報奨金が、受け取れるようになった。
総務機能としては会員管理や、寄付のシステム、寄付者とのつながり、寄付の依頼などについて結びつきを強める取り組みは対応が遅れている。
また総務機能を強化し、総務面で各事業所を指導していくところは今後の課題となっている。

② について 管理者は、5月に事業所の経常収入について予算を立て、2020年1月にはその決算予測を元に、2020年度の予算を作成した。
数字では、総務の予算案とほぼ合致し、加算や人員配置については一定の責任を持って行うように

なっている。また、利用者を増やしたり、企画で多くの人を呼べる内容作りなどを経営とともに考えられるようになってきている。

次は、一緒に仕事をする職員への対応や、人心把握、リーダーのコミュニケーション力とは、などが研修課題となっている。

さらに、法人全体の今後の事業の展望について管理者と意識を共有していく取り組みをしていく。

③ 藤準備会は引き続き配置する人員の確保ができないことにより延期になっている。

準備会活動として、2019年12月14日(土)午後14:00～16:30の日程で、木曾川文化会館にて講演会を開催した。

講師「長谷川晃子氏 JAXA職員」演題「夢を現実に！」50名を超える参加者で成功に終わった。

イベント参加などを通じて広報、バザー活動を4回行い、売り上げ、寄付などで16万超の志が寄せられた。



1月に突如上陸してきた新型コロナウイルスについて愛知でクラスターが発生した2月から事業所運営に影響が出始め、3月学校休校その後の非常事態宣言に至って、これまでとまったく違う運営が求められることになった。それでも、各事業所の職員は冷静に対処し、物資が不足する中で予防に努め、希望する利用者の生活を守ることができた。

法人は社労士と相談しながら、保育園等が休園になったことにより休む必要ができた職員への休業補償、利用者減によるシフト変更で収入減になった職員への休業補償などについては2019年度中には動くことができなかったが、3月についてはヘルパー登録職員のみ休業補償全額保証を行った。

2 事業の実施に関する事項

2019年4月1日～2020年3月31日の事業年度に以下のとおり、事業を行った。

(実施場所は省略)

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業、一般相談支援事業、特定相談支援事業、地域生活支援事業

ア 生活介護事業

| | | | | | |
|--------|--|----|--------|--------------------|------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター碧 | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 11名 |
| 契約者数 | 20名 | | | 平均利用実績 | 9.0名 |
| 事業所目標 | 職員個人の技術を高めて、仲間の過ごしやすい事業所にしよう。 | | | | |
| 目標評価 B | 目標にあげていた、職員の資格取得や研修参加は達成。 事故が多く、課題が残った。 | | | | |
| 費用計画 | 38,728,000円 | | 経常収益計画 | 43,370,000円(補助金含む) | |
| 費用実績 | 37,387,574円 | | 決算 | 43,026,565円 | |
| 収支差額 | 5,638,991円 | | | | |

イ 就労継続支援B型

| | | | | | |
|--------|---|----|--------|-------------|------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター蒼 | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 10名 |
| 契約者数 | 11名 | | | 平均利用実績 | 9.0人 |
| 事業所目標 | 職員間での情報共有をしっかりと、常に連携して働くことができる。 | | | | |
| 目標評価 B | 2019年度は新しい職員・パートがたくさんいたため、朝の打ち合わせや情報共有ファイルを作り情報共有できるよう努めた。スタッフどうしでのほうれんそうがなく、連携不足だった。 | | | | |
| 費用計画 | 22,757,000円 | | 経常収益計画 | 20,200,000円 | |
| 費用実績 | 23,385,694円 | | 決算 | 20,174,801円 | |
| 収支差額 | △3,210,893円 | | | | |

| | | | | | |
|--------|---|----|--------|-------------|-------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター桃 | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 15名 |
| 契約者数 | 42名 | | | 平均利用実績 | 14.0人 |
| 事業目標 | 体力と笑顔の維持向上を図るため、ひとりひとりが生きがいを感じられる仕事を提供する。 | | | | |
| 目標評価 A | 全国ろうあ者大会の記念品「ほうき 4500本」を目指し、全員でひとつの目標に向かって役割分担しながら取り組むことができた。 | | | | |
| 費用計画 | 28,605,000円 | | 経常収益計画 | 31,220,000円 | |
| 費用実績 | 28,754,028円 | | 決算 | 31,700,891円 | |
| 収支差額 | 2,946,863円 | | | | |

ウ 多機能型

| | | | | | |
|--------|--|----|--------|-------------|------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターそら | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 8名 |
| 契約者数 | 12名 | | | 平均利用実績 | 7.3名 |
| 事業所目標 | 仲間に寄り添った支援を実践し、活動の幅を広げよう。 | | | | |
| 目標評価 A | 日々の支援の中で、各職員の仲間に寄り添う意識の高さが昨年度と比較してはつきりとみられた。 | | | | |
| 費用計画 | 20,604,000円 | | 経常収益計画 | 18,870,000円 | |
| 費用実績 | 19,157,497円 | | 決算 | 20,173,625円 | |
| 収支差額 | 1,016,128円 | | | | |

ウ 共同生活援助

| | | | | | |
|------|--------|----|----|----------|----|
| 事業所名 | 碧第1ホーム | | | | |
| 営業日数 | 345日 | 定員 | 7名 | 平均利用者数計画 | 5名 |

| | | | | | |
|--------|---------------------------------|--|--------|-------------|------|
| 契約者数 | 5名 | | | 平均利用実績 | 4.0名 |
| 事業所目標 | 利用者さんにゆったりとした過ごしやすいホームをつくろう | | | | |
| 目標評価 A | 情報を共有し、一人ひとりのペースに合わせた生活の支援ができた。 | | | | |
| 費用計画 | 15,646,000円 | | 経常収益計画 | 15,990,000円 | |
| 費用実績 | 14,076,690円 | | 決算 | 15,847,062円 | |
| 収支差額 | 1,770,372円 | | | | |

エ 日中一時支援

| | | | | | |
|--------|--|----|-----|----------|------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターひまわり | | | | |
| 営業日数 | 245日 | 定員 | 10名 | 平均利用者数計画 | 4名 |
| 契約者数 | 11名 | | | 平均利用実績 | 3.9名 |
| 事業所目標 | 専門職としての誇りを持ち、柔軟なチームをつくろう。 | | | | |
| 目標評価 B | 朝の打ち合わせの時間を設定し、情報共有に努めた。 保護者交流会や研修会を通じて“聴覚障がい”やその支援について理解を深める機会を持つことができたが、さらに専門性を生かして外部との連携を深めたい。 | | | | |

※以下放課後等デイサービスの項のひまわりに同じ

オ 居宅・行動・同行・重訪

| | | | | | |
|--------|---|----|--------|-------------|--|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターおれんじ | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | | 平均利用者数計画 | |
| 契約者数 | 69名 | | | 平均利用実績 | |
| 事業所目標 | ヘルパー・利用者家族・事業所と連携を取り合い、利用者の変化(病や身体機能の低下など)に気を配る。 | | | | |
| 目標評価 A | 利用者の緊急連絡カードを作成し配布。 常勤の一部とヘルパー間の連絡にLINEを導入。素早い情報交換ができるようになった。 | | | | |
| 費用計画 | 20,907,000円 | | 経常収益計画 | 19,970,000円 | |
| 費用実績 | 20,867,551円 | | 決算 | 20,815,465円 | |
| 収支差額 | △52,086円 | | | | |

カ 計画相談

| | | | | | |
|--------|---|----|--|----------|--|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター葵 | | | | |
| 営業日数 | 257日 | 定員 | | 平均利用者数計画 | |
| 契約者数 | 74名 | | | 平均利用実績 | |
| 事業所目標 | 利用者本位のプランを実現するマネジメント力をつけよう。 | | | | |
| 目標評価 A | チームを組む支援者の中には在宅は無理との意見もあったが、本人の希望を尊重し、在宅生活を継続しているケースあり。本人の希望を実現することを中心に据えて動くことができた。 | | | | |

| | | | |
|------|----------------------|--------|--------------------|
| 費用計画 | 9,521,000 円(ケアマネとの計) | 経常収益計画 | 6,833,000 円(補助金含む) |
| 費用実績 | 8,888,601 円 | 決算 | 7,910,859 円 |
| 収支差額 | △977,742 円 | | |

① 介護保険法に基づく事業

ア 訪問介護、介護予防訪問介護

以下、移動・居宅・同行・行動の情報に同じ

| | | | | | |
|------|-----------------|----|--|----------|--|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターおれんじ | | | | |
| 営業日数 | 257 日 | 定員 | | 平均利用者数計画 | |

イ 居宅介護支援

以下、計画相談の情報に同じ

| | | | | | |
|------|--------------|----|--|----------|-----|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター葵 | | | | |
| 営業日数 | 257 日 | 定員 | | 平均利用者数計画 | 12名 |

③ 児童福祉法に基づく事業

ア 児童発達支援、放課後等デイサービス

| | | | | | |
|--------|--|----|--------|--------------|--------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターつくしっこ | | | | |
| 営業日数 | 257 日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 22 名 |
| 契約者数 | 62 名 | | | 平均利用実績 | 18.7 名 |
| 事業所目標 | 情報共有:職員やスタッフ間の連携を大事にする 相互理解:子ども同士や大人同士、子どもと大人同士それぞれわかりあえる関係作り 危機回避:怪我や事故がないように安全を守る | | | | |
| 目標評価 A | スタッフへの連絡ノートを長期休みを除き、毎日記入できたか、を評価対象とする。 連絡ノートを記入することはほぼ毎日できており、スタッフへの情報共有は怠らないようにできた。しかし連絡ノートを読まない・読む時間がないスタッフもいるため、連絡ノートだけではなく対面コミュニケーションによる情報提供も考えている。 | | | | |
| 費用計画 | 34,341,000 円 | | 経常収益計画 | 37,910,000 円 | |
| 費用実績 | 33,906,722 円 | | 決算 | 37,132,595 円 | |
| 収支差額 | 3,225,873 円 | | | | |

| | | | | | |
|--------|----------------------------|----|--------|--------------|--------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター茜 | | | | |
| 営業日数 | 257 日 | 定員 | 20名 | 平均利用者数計画 | 20 名 |
| 契約者数 | 67 名 | | | 平均利用実績 | 16.8 人 |
| 事業所目標 | チームで連携！支えあうチーム作り！ | | | | |
| 目標評価 B | 振り返りできる時間を確保できず、情報共有が弱かった。 | | | | |
| 費用計画 | 27,849,000 円 | | 経常収益計画 | 34,490,000 円 | |

| | | | |
|------|--------------|----|--------------|
| 費用実績 | 22,229,152 円 | 決算 | 32,136,153 円 |
| 収支差額 | 6,333,829 円 | | |

| | | | | | |
|--------|---|--------|--------------|----------|-------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センターひまわり | | | | |
| 営業日数 | 245 日 | 定員 | 10 名 | 平均利用者数計画 | 7 名 |
| 契約者数 | 25 名 | | | 平均利用実績 | 6.8 名 |
| 事業所目標 | 専門職としての誇りを持ち、柔軟なチームをつくろう。 | | | | |
| 目標評価 B | 朝の打ち合わせの時間を設定し、情報共有に努めた。 保護者交流会や研修会を通じて“聴覚障がい” やその支援について理解を深める機会を持つことができたが、さらに専門性を生かして外部との連携を深めたい。 | | | | |
| 費用計画 | 19,917,000 円 | 経常収益計画 | 17,550,000 円 | | |
| 費用実績 | 21,665,588 円 | 決算 | 24,560,887 円 | | |
| 収支差額 | 3,214,511 円 | | | | |

イ、放課後等デイサービス

| | | | | | |
|--------|--|--------|--------------|----------|--------|
| 事業所名 | 聴覚・ろう重複センター楓 | | | | |
| 営業日数 | 257 日 | 定員 | 10 名 | 平均利用者数計画 | 10 名 |
| 契約者数 | 53 名 | | | 平均利用実績 | 10.2 名 |
| 事業所目標 | チームで連携！ 支えあうチーム作り！ | | | | |
| 目標評価 B | 個々での報告、相談等はできるが、スタッフ間での周知、統一までは至らず不足。 スタッフ皆での相談や検討できる場、気軽に話し合いができる場を設けたい。 | | | | |
| 費用計画 | 23,580,000 円 | 経常収益計画 | 27,460,000 円 | | |
| 費用実績 | 21,324,881 円 | 決算 | 27,290,852 円 | | |
| 収支差額 | 7,845,190 円 | | | | |

④ 化粧品製造販売事業

事業所名 TeDe

(ア) 事業内容

授産事業として、安心安全な手作り化粧品の製造販売

(イ) 実施日時 年間 144 日

(ウ) 実施場所

名古屋市守山区金屋二丁目 286 鳥羽見マンション 1 階西号室

(エ) 従事者数

常勤職員 4 名(兼務) 非常勤職員 2 名

(オ) 受益対象者の範囲及び人数

注文販売、マルシェ・イベントでの販売、ネット販売で提供

(カ) 売上額 2,653,428 円(予算 3,500,000 円)

(キ) 経費額 2,543,782 円(予算 3,000,000 円)

(2) その他の事業

① 駐車場等事業

| | | |
|-----------|----------------------|------|
| (ア) 事業内容 | 法人の土地を駐車場として経営する。 | |
| (イ) 実施日時 | 2019年4月1日～2020年3月31日 | 12か月 |
| (ウ) 実施場所 | 名古屋市守山区西川原町 | |
| (エ) 従事者人数 | 1人(総務) | |
| (オ) 収益額 | 888,000円(予算800,000円) | |
| (カ) 費用額 | 386,866円(予算400,000円) | |

② 研修等の実施状況

12月7日 第10回法人職員研修 10時～16時 守山商工会3階会議室



大塚千恵美氏



山地希美恵氏

テーマ「横断的に知ろう。ろう者のくらし、ろうあ運動」

講師：午前の部 西春日井聴覚障害者協会 会長 大塚千恵子氏

演題：私の受けたろう教育とその後のろうあ運動

午後の部 一宮市聴覚障害者協会会員 山地希美恵氏

演題：私と人工内耳

法人パート含む40名の参加

